

一斉学習
児童生徒発表型

実践タイトル チャット形式で英作文の共有(聴覚障がい)

本時のねらい

学習した内容をもとに、英作文や会話練習をする学習活動である。聴覚に障がいがある生徒たちは、英作文を互いに伝え合う時に、アルファベット指文字やアメリカ手話を用いるなど大変である。そこで、ICTを活用することで、それぞれが作った英作文をデジタルテレビに映し出し、同時に共有することが可能になる。

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

PC

PCを1人1台ずつ使用することにより、各生徒が自分の応答を英作文する。

その他

要約筆記ソフトウェア(IPtalk)は、各生徒の英作文を1台のデジタルテレビに自動的に集約して、画面表示をすることができる。

参考にしてほしいポイント

利用した要約筆記ソフトウェア(IPtalk)は、本来は複数の人が同時に文章を打ち込み、協働して長い文章を表示する聴覚障がい者のためのPCソフトウェアである。これを、英文チャットのように使用することで、各生徒の英作文を瞬時に共有することができ、英語の学習に大変有効である。また、自立活動の書記日本語力向上などにも活用することができる。

学習の流れ(分)	主な学習活動と内容	ICT機器・教材、コンテンツ等
本時の導入 0 10	○前時の復習と本時の導入	・教科書 ・ビクチャーカード(デジタル、アナログ)等
本時の展開 40	○英語の自由作文や英会話、ALTとの会話練習をPCで入力し、画面の共有をする。(写真1~3) ○それぞれの文章を音読したり、解説したり、添削したりする。	・聴覚障がい者用要約筆記ソフトウェア ・PC(生徒数) ・ハブ ・デジタルテレビ (それぞれが入力した文を、1つの大型テレビに集約)
本時のまとめ 50	○本時の学習事項の確認と次時の連絡。	・ワークの練習問題



写真1: 各生徒が英作文をして、大画面に自動集約



写真2: ALTとの文字会話

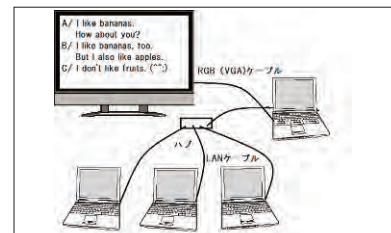


写真3: 配線・配置(パソコンをハブにつなぐだけ)

児童生徒の反応

生徒はPCにも慣れているので入力は大変早い。また、日頃から連絡はメールが多い聴覚障がいの生徒にとって、チャット形式は慣れている。生徒への導入もスムーズであり、生徒はこれが聴覚に障がいがある人々のための情報保障に使われていることを知り、それを使っているということにとっても興味深く関心を持っている。

活用効果

評価の観点	即問即答
具体的変容	英作文に対する苦手意識の減少。課題に対して、ゆっくりノートに書いて、確認して、口頭発表という学習活動の流れから、即答ができるようになってきた。即答するためには話したい内容と、求められている文法事項の確認、スペルの確認などが瞬時に求められる。口話では曖昧な発音でも通じる単語が、正確なスペル、三単現のSなども確認するようになってきた。

実践の手応え

場面設定のある英作文などの学習活動に適している。即答したり、互いの英文の比較検討をしたりでき、相互学習を通して、表現の工夫や文法事項の確認など短時間で効果的にできた。英検の二次面接試験のような即答問題の練習にも応用できる。